みち学習　社会科指導案

「自然災害とともに生きる」

２０２０年　３月　４日（木）

札幌市立札苗緑小学校

中田　充

1. 本単元で育む資質・能力

○地図帳や資料を文章などでまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。（知識及び技能）
○災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現する。（思考力・判断力・表現力）
○自然災害や防災対策について、学習問題を考えたり、予想や学習計画を立てたりし、主体的に学習問題を解決しようとする。（学びに向かう力・人間性等）

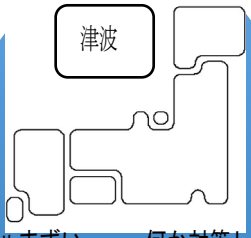
2. 単元について

日常生活の中で、社会資本が整えられていることの有り難さを感じている子どもは少ない。諸外国（特にヨーロッパ）と我が国の自然環境を比較すると、４つのプレートの上にあるため世界的に地震が多い（M６以上では２０%が日本で発生）にも関わらず地盤が軟弱であること（ヨーロッパは一つのプレートで岩盤）、台風や豪雨が多く発生していること、人口の５０パーセントが氾濫想定区域に生活していること、国土の６割が積雪寒冷地域であることなど国土の脆弱性が浮き彫りとなる。その一方で軟弱な湿地帯とも言える平野が広がっていたからこそ稲作に適していたり、大量に降る雪が水資源になっていたりと、我が国土の困難は同時に豊かさの源でもある。そして、脆弱性を弱め、我が国土の強みをより生かす営みこそが社会資本の役割であり、そのはたらきとそこに関わる人々の営みを学ぶことことは非常に価値あるものだと考える。

そこで、本単元では国土の豊かさと困難さや諸外国との比較を取り入れながら、自然災害の多さと対策の必要感を十分に醸成し、単元の学習問題を作っていくことに重点を置く。追究場面は、ジグソー型学習で行う。単元の終末では、ポスターセッションを通して調べたことを共有し、単元の学習問題を解決していく。また、学習問題づくりや追究活動の際に、国土交通省北海道開発局の方にゲストティーチャーとして新たな事象提示や児童の質問に答えるなど関わってもらい、学習を深めていきたい。

参考文献
新保元康　2019 「小学校における社会資本についての学習の現状とこれから」建設マネジメント技術
１２月号

3. 単元構成（５時間扱い）

	子どもの主な活動
1	豊かな水資源 多くの山・森林 → 農業 水産業 → 台風・豪雨・土砂崩れ・ 洪水・地震・津波・噴火 豊かな自然条件生かし　コントロール不可
2本時	地震対策？　教えてGT　なぜ太さが違うの？ ４つのプレート 地震多い 地盤弱い  １つのプレート 地震少ない 地盤強い 台風　津波　大雪 洪水　噴火  このままじゃまずい・・・何か対策しているはず！ 毎年起こる様々な自然災害に対して、だれが、どのような取組をしているのだろうか
3 4	国や県 耐震工事 緊急地震速報 災害対策本部 防潮堤 津波避難タワー 防災訓練 教えてGT 砂防ダム 河川防災ステーション ハザードマップ わたしたち 火山の観測 警報システム 防ご柵
5	調べたことを共有しまとめる 【単元のまとめ】 それぞれの自然災害に対し、国や都道府県が様々な対策が取られていたことで、私たちは安心してくらすことができる。また、災害に対する正しい知識をもち、自分たちのできる防災対策をすることが大切。

4. 本時の目標と学習展開

資料やゲストティーチャーの話などから、日本と海外の国土の自然条件と自然災害の発生状況の比較を通し、自ら学習問題を考え、予想を立てることができる。　（学びに向かう力・人間性）

主な学習展開	教師のかかわり
前時までに子どもたちは、国土の自然条件と産業や国民生活との結びつきについて「豊かさ」と「困難さ」の両面から捉えている。 ○２枚の写真を比較して、気づいたことを話し合う 日本の橋脚は頑丈そう フランスの橋脚は大丈夫かな 大きな地震があったところだよ 地震がきたら崩れそうだよ  阪神高速道路の橋脚　シャルル・ド・ゴール空港のアクセス道路の橋脚 ○ゲストティーチャーによる事実の提示 日本　フランス ４つのプレート境目にある地震が多く地盤が弱い １つのプレートの上にある地震が少なく地盤が強い 不安 **世界の国土に対し日本の国土は約６％しかないのに** **世界で起きるＭ６以上の地震の約２０％が日本で発生！** ○自然災害の年表や分布図をもとに発生状況を捉え、学習問題を作っていく 毎年のように大きな自然災害が発生している 東日本大震災の時は津波による被害も大きかったね 地震だけでなく様々な自然災害が発生しているよ 去年の台風で千葉県でたくさんの家が壊れたよ 不安 **阪神高速道路の橋脚のように何か対策をしているはず！** 毎年起こる様々な自然災害に対して、だれが、どのような取組をしているのだろうか。 ○学習問題に対する予想を立て、話し合う 自然災害によって取組も違うと思うな たくさんお金がかかりそうだから国が取り組んでいると思う 堤防や防風林なんかは学習したよ 対策が進むことによって被害が減っていると思うな	・特に自然災害を人間がコントロールすることは不可能であるという困難さに焦点を当てる。 ・写真が撮られた場所やどんな建物か説明した上で写真を提示する。 ・阪神高速道路と地震が結びつかない場合は阪神淡路地震の写真を提示し、説明する。 ・ゲストティーチャーは以下の４点を説明する。 ① プレートと地震発生の因果関係について ② 日本とフランスの自然条件の違いについて ③ 地盤と揺れの関係（映像） ④ 日本の地震の割合 ・子どもの発言に合わせて、被害の状況が分かる写真を黒板に貼っていく。その際に、被災当時の状況や被災者の心情まで想像できるように問い返す。